

二 左京四条二坊六町、四条条間小路

(1) 「鮒等魚借

(82)×15×2.5 051

ほぼ完形の物品付札。「借」については他にもう一点「鯛借」の出土例がある(左京第二六七次、『木簡研究』一四)。肉月を人偏に作る異体字の例もあるので、「借」は「腊」の意味であろうか。

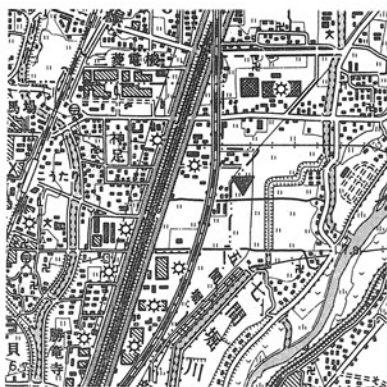
(一) 松崎俊郎、二 國下多美樹、釈文 清水みき



## 京都・長岡京跡 (2)

- 1 所在地 京都市伏見区淀樋爪町
- 2 調査期間 一九九三年(平五)四月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 勅京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 吉崎 伸・上村和直・木下保明・長宗繁一
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 長岡京期(七八四～七九四年)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

当調査は、一九九〇年より継続している水垂地区の発掘調査で、既に報告したように左京七条三坊一・二町で四点の木簡が出土して



(京都西南部)

いる『木簡研究』一三)。今回報告するのは左京六条三坊二町(新左京六条三坊四町)の調査で(左京第二八八次調査、井戸底部に据えられた曲物に墨書を確認した。調査地は同町の南西隅三戸主分にあたり、他に建物一六棟、井戸四基などを検出

している。

井戸SE一〇四は、一辺約1mの方形横棧二段縦板組で、深さは二・1mを測る。この底に直径四〇cm、高さ三四cmの曲物を据える。

井戸は、南から三戸主目の宅地に伴うものとみられ、宅地の南東端に位置している。井戸内からの出土遺物は、長岡京期の土師器杯Bの完形品が曲物底部に伏せられるように見つかり、埋土からは斎串が一点出土している。

## 8 木簡の釈文・内容

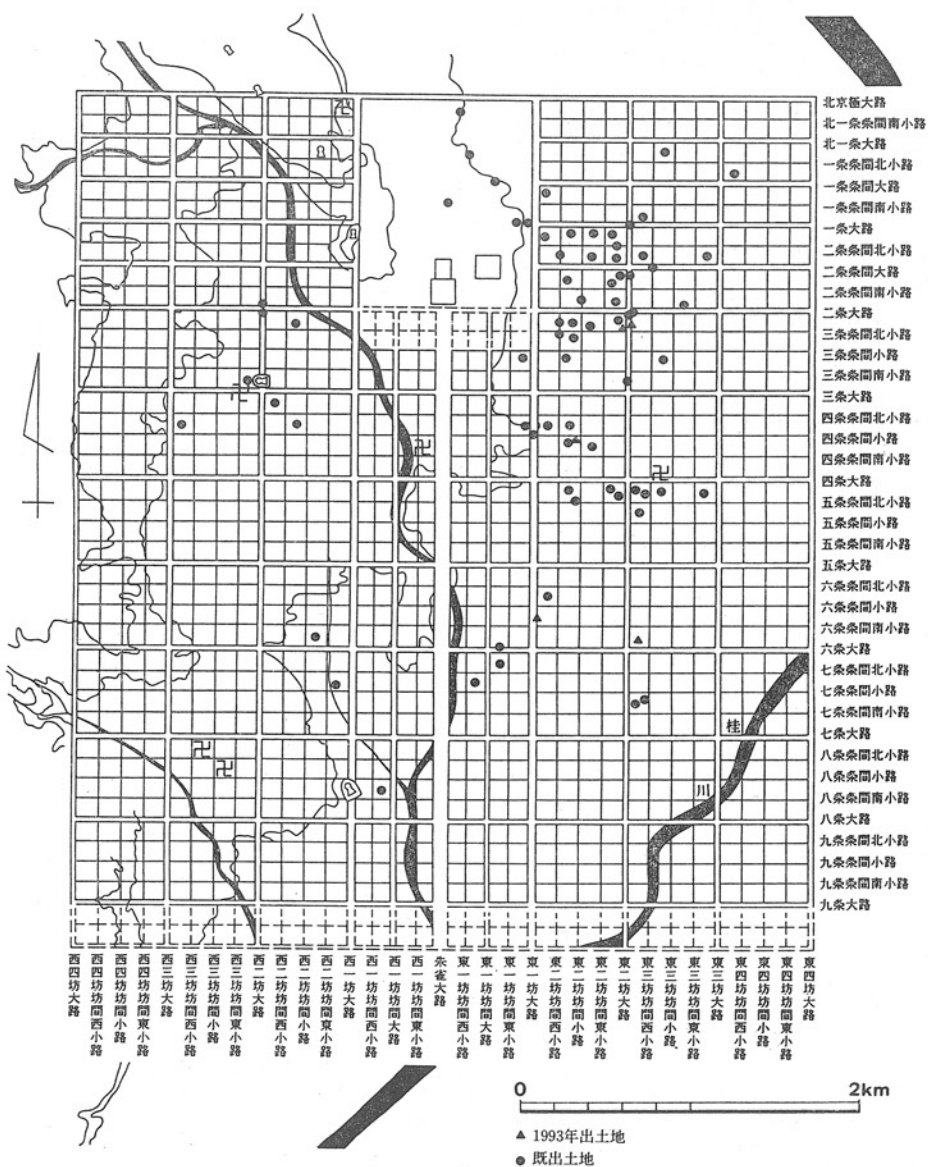
### (1) 「角萬福」

径400×高340 061

墨書は、曲物外面に書かれていたため残存状態が良く明瞭に読み取れ、一字約七cm角と大きく書かれている。位置は接合部分にあたり、接合部と墨書との関係から、曲物にする前の板状に加工された段階で既に書かれていた可能性がある。曲物は、墨書面がおおよそ西を向くように据えられていた。今回のような曲物墨書の類例はこれまで長岡京の調査にはなく、今後は井戸曲物自体の観察に注意を払う必要がある。井戸自体の祭祀とともに、宅地への招福を願うての墨書と考えられるが、今後の資料増加をまって検討する必要がある。

(長宗繁二)





長岡京跡木簡出土地点図